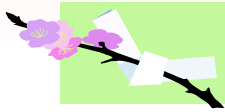


1年を振り返って 中学校 国語班



太田市立北中学校 教諭 島崎 純美代
吉井町立入野中学校 教諭 横谷 隆
担当指導主事 生徒指導相談グループ 井上 淑人

1 班別研修に対する所感

学習意欲の低い生徒や学力低位の生徒を学習活動に引き込むにはどのような手立てが必要か、などを考えて実践しました。生徒が興味を持てるような作品との出会わせ方、生徒に「具体」と「抽象」を意識して捉えさせる手立てなど、自分一人では考えつかない発想や切り口で考えることができ、勉強になりました。また、日頃の指導の中で、自分が課題としていることを話して、その改善策と一緒に考えていただくことも、自分自身の授業改善につながりました。

2 多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

教育現場とは違った世界に身を置く講師の方々からは、緻密で多面的な見方、考え方を示唆していただきました。また、教育現場に身を置く方々からは、本気勝負という心意気と、生徒の気持ちや捉えたり、興味を持続させたりするような動機付けの工夫の大切さを教えていただきました。教育現場でずっと過ごしていると、その環境に慣れてしまっていて見えなくなっている部分があるため、新鮮な空気を感じることができました。

3 授業参観協力校等での授業参観に対する所感

話合い活動を取り入れて、故事成語の由来、意味理解などを行う授業を参観させていただきました。班別研修でも、学び合いの手立てとして小グループによる話合い活動が話題になり、その展開の仕方を意識して研究授業に臨んでいたため、参考になりました。また、評価カードを使って生徒の本文理解を促したり、暗唱への意欲付けを効果的に行ったりしながら、多くの場面で教師が生徒を支援している姿が見られました。このように、自分の教科の授業を参観させていただけることは、気づきや学びが多く、自らの授業改善にもつながる、と感じました。

4 授業実践とその参観に対する所感

班として「『読解』と『書くこと』を関連させた学習課題の設定」「生徒の考えや思いを明確にしたり、思考を深めさせたりする学び合いの工夫」「どの生徒にも『わかる』『できる』という成就感・達成感を持たせる手立ての工夫」の三視点を意識して授業実践に臨んできました。学び合いとして、小グループでの話合い活動を取り入れ、意見交換を行う機会を設けました。

また、「お助けプリント」と名付けた補助教材を導入したり、枠組みや構成を考えていくのに有効な、色付せん紙での分類法を取り入れたりとすることで、生徒達に成就感・達成感を味合わせることができました。そして、何よりも簡潔で明確な発問が大切であることを再認識しました。

